

夢中になって取り組む子になってほしい



Q ぼーっとしている

遊びを見つけられないでぼーっとしていることが多いけれど、どうしたらよいでしょうか。

A 親子で遊びを見つけよう

周りのお子さんが遊びに夢中になっているのに、自分のお子さんがなんだかぼーっとしているように見えてご心配なんですね。確かにご心配とは思いますが、幼児期には一人で空想にふける時間も必要です。ぼーっとしているように見えても、実は心の中で豊かに想像し、頭をフル回転させているのかもしれない。このような場合は、もう少し様子を見守ってよいと思います。“楽しそう”と感じ心が動き出すと、“やってみようかな”と体も動き出すと考えます。

一方、遊びの経験が少なく、遊びの楽しさを実感できなくて様子を見ているという場合は、遊びを親子で一緒に見つけて楽しんでみてはいかがでしょうか。“こういう遊びが、こんな風に楽しいんだ”ということが実感できれば、それが経験となって次に生き、自分から遊べるようになることがあります。普段からお子さんは何に興味関心があるのか、そんな点から観察しておくことも必要です。

なお、ちょっと変わった遊び方（例えば、単純にものを並べ続けたり、回るものを見続けたりするなど）が多かったり、全く遊べなかったりして気になる姿が続くようでしたら、お子さんが通っている園の先生をはじめ、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談してみてもはいかがでしょうか。



Q 長続きしない

すぐに遊びに飽きて、長続きしないことが多いけれどどうしたらよいでしょうか。

A 一緒に遊びながら環境を作ってあげましょう

お子さんは何歳なのでしょう。一般的には5、6歳になってようやく友達と長い時間遊べるようになりますが、それ以前であれば遊びが長続きしないこともよくあることです。また、親が遊びと考えていないようなこと（例えば、何かを集める、並べるなど）も、子どもにとっては魅力的な遊びでもあるのです。

もし、遊びが単調すぎて飽きてしまうようであれば、ぜひ一緒に遊ぶ中で楽しくなるようなアイデアを出してみてください。一つの遊びが長続きするよう、遊びが発展するように環境をつくってあげることも大切です。一緒に遊ぶ中で、保護者の方が遊びの楽しさや面白さを表情豊かに表したり、遊びが変わっていく面白さをお子さんと共有したりすることは、きっとよい影響として伝わると思います。

お子さんがどのようなことが好きなのかを知るためには、園生活での様子などを先生に伺ってみると意外な面が見つかるかもしれません。焦る必要はありませんが、なかなか改善が見られないと感じた時には、お子さんが通っている園の先生にご相談してみてもいいかもしれません。



Q 困ったことがあると、考えずすぐに頼る

困ったことがあると、「どうしたらいい？」と聞いてきて、自分で考えようとしません。どうすればよいでしょうか。

A “小さな自己決定”を大切に

お子さんは、保護者の方をとて頼りにしているのですね。それだけ信頼しているということだと思います。また、「どうしたらいい？」と聞いてくることで、“指示してほしい”ということを求めているとしたら、もしかしたらお子さんは失敗することを心配しているのかもしれません。

子どもたちには“自分で考える力”をぜひつけてほしいと思います。指示に従うのは、お子さんにとって“早く正解にたどりつける”ためには簡単な方法ですし、保護者にとっても手っ取り早く便利な場合もあります。しかし、今後のお子さんの人生を考えると、自分で決めなければならないことがたくさん出てきます。ですから、幼児期の今から“小さな自己決定”をすることが大切だと考えます。これは難しいことではありません。「今日は〇〇して遊ぼう」とか「この色で塗ってみよう」「どの服を着ようかな」など、遊びや生活の中で小さなことをお子さんが決めるようにすることから始めていきましょう。

また、「どうすればよい？」と聞かれたら、「自分で考えてごらん」と言う前に、「〇ちゃんはどうしたいの？」と聞き返したり、少しヒントを与えたり、いくつかの選択肢を提示したりしながら、お子さんなりに考えるという習慣をつけていくようにするとよいと思います。この時、お子さんが出した考えを「そうだね」「そう考えたんだね」と肯定的に受け止めることが大事です。せっかく自分の考えを出しても、「無理だよ」「おかしいよ」「だめ」などと否定されてしまうと、次の時に自分の思いを出すことを躊躇するようになってしまいます。もし、あまりにも突拍子もない考えを出したら、「そう、〇ちゃんはその思うんだね」と一旦受け止め、その後「でも、それは難しいかもしれないよ」「こうしてみたら？」等、やんわり方向を変えるよう助言してみてください。

自分で考えて決めたという小さな積み重ねが、その後の成長に大きくつながります。日頃からスモールステップを心がけ、小さな変化を大事に育てていきましょう。



Q 最初から諦めてしまう

何でも「できない」「いやだ」と自分からやろうしなかったり、最初から諦めてしまったりします。初めてのことは特に嫌がります。積極的に何事も夢中になって取り組む子にするにはどうすればよいでしょうか？

A 少し興味をもった時がチャンスです

慎重な性格のお子さんでしょうか？みんながやるのを確認してから、「やってみよう」と思っているのかもしれませんが、繊細なお子さんだと、他の子が失敗する姿を見ることで心配になってしまうこと

もよくあります。まずは、「なぜ、やろうとしないのか」「どうしてやる前から諦めてしまうのか」など、お子さんの気持ちを聞いてみて、その場で解決できそうなことは一緒に考えて解決してあげましょう。気持ちを言葉で表現できない場合は、お子さんの気持ちを受け入れ、一緒になって考えたり、一緒にやってあげたりしながら、お子さんのやる気を後押ししてあげるとよいと思います。

時には、自信がなくて最初の行動の一步を踏み出せないことがあるのかもしれないので、「大丈夫、やればできるよ」「少し様子を見てからやっごらん」などと、お子さんの気持ちを受け止めながら、興味をもつまで待ってあげることも必要なことです。最初は「いやだ」と言いながらも、みんなのやるのを見て自分でできそうだと思うと参加してくる子もいます。

少し興味をもった時がチャンスです。「さあ、やっごらん」と、背中を押してあげましょう。保護者の方が一緒に遊びながら、不安感をなくし、やり出すきっかけを作ってあげると、思いのほかスムーズにいくこともあります。お子さんと一緒に楽しく遊ぶことで、お子さんが興味をもつことや好きなことを知ることができ、“興味をどうやって持続させるか”など、次の遊びの手だてが分かってくるかと思われれます。

お子さんの興味を引き出し、やる気を見せたり少しでもやり出したりする意欲を認めながら、「やってみたらできた」「やってみたら面白かった」「みんなとやったら楽しかった」などの楽しい経験や満足感を積み重ねていくことが大切です。お子さんが“やる気みせた姿”を認め、褒めて自信をもたせてください。園の先生にもご協力頂き、園と家庭と一緒にお子さんの成長を見守っていかれるとよいと思います。時間はかかるかもしれませんが、焦らずゆったりした気持ちでお子さんの成長を見守り関わっていきましょう。

また、環境の変化や新しいことへの抵抗が激しく、状態が好転しないでご心配が続くような場合は、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）などにご相談されてみてはいかがでしょうか。



Q 昆虫が苦手

虫が嫌いで「虫がいるから」となかなか自分から外で遊ぼうとしません。そのためか、草花にもあまり興味がなく、このままでは心配です。

A 絵本や童話から親しむようにしてみれば

砂遊びやどろんこ遊び、お花の世話など外での遊びをするうちに、自然に興味をもって、身近にいるアリやダンゴ虫などを自分から見つけてつかまえるようになるお子さんもいれば、虫が嫌い、苦手というお子さんもいると思います。大きくなってから虫に興味をもったり、触れたりすることはとても難しいことです。小さいうちに、身の回りにいる昆虫や小動物に興味をもたせ、命の尊さを感じ取らせることは、心の成長にとっても大切だと考えます。

虫は身近な動物（犬や猫など）と比べ、大きさや足の数、体の色、ひげや毛の生え方など、大きく異なります。そのため、みんなが楽しそうに虫と関わっていても、苦手意識を払拭できない子もいます。まずは、お子さんがどんな虫が苦手なのか、虫の何が苦手なのか、話し合ってみてください。あわてて図鑑やインターネットなどで虫の写真や動画を見せるケースがあるようですが、それはあまりお勧めできません。いきなり虫の実物写真や拡大写真を見せると、リアル過ぎてかえって逆効果ともいえます。

身近な昆虫をテーマにした絵本を通して、子どもの興味をじっくり育てていくことをお勧めします。絵本や童話の中には、アリやテントウム虫、チョウやミツバチなどの昆虫をテーマにした温かいお話がたくさんあります。親子で絵本を楽しみながら、お話の中の昆虫に親しみや愛着を感じる時間を大切にしてみてください。そして、少しでも昆虫に親しみや愛着を感じることができるようになったら、スズムシやコオロギなどの鳴き声が素敵な虫を飼って、世話をしたり音色を楽しんでみたりしてはどうでしょうか。少しずつ、昆虫に対する意識が変わってくるかもしれません。さらには、休日などに家族で野原に出かけ、虫の観察などをしてみてもいいですね。「お子さんが虫を嫌い」と言う保護者の中には、“ご自分も虫嫌い”という方がいます。まずは、保護者自身がお子さんと一緒に虫の観察を楽しんでください。

また、野原などに出かけて自然に触れ合う機会を増やしながらか、「この花、とてもきれいだね」「よい匂いがするね」などと保護者が草花にも目を向けていけば、お子さんの興味関心も徐々に草花にも向くようになると思います。

幼い時から、昆虫や小動物、植物と触れ合うことは、自然の大きさや生命の尊さを身をもって感じるよい体験になります。焦らず、じっくり取り組んでみてください。



Q 神経質で、遊びこめない

神経質で、遊んでいる途中でちょっと汚れたりぬれたりすると、すぐに着替えたくくなります。「もっとたくさん遊んでからにしたら」と言っても、自分で着替えてしまいます。そのためじっくり遊びこむことも少ないようです。

A 汚れを気にせず大人も一緒に楽しんで

お子さんは汚れることがとても気になるようですね。きっと、日頃から保護者の方がきちんときれいに生活している姿が、お子さんに反映しているのでしょう。

そんなきれい好きのお子さんだからこそ、汚れも気にしないでたくましくダイナミックに遊んでほしいと保護者の方が願うのもよく分かります。幼児期の遊びには、学習につながる様々なものが含まれています。幼児期に夢中になって遊びこむのは、とても大切なことですが、思い切り遊ぶことが大切と分かっているにもかかわらず、性格や習慣は急には変わらないため思うようにならないことも多いのではないのでしょうか。

“汚れを気にしないで遊んでほしい”“たっぷり遊んでから着替えてほしい”という願いがあるのですから、時には保護者の方も一緒に思いっきり遊んで経験を共有し、汚れても気にしないという姿を見せてみたらいかがでしょうか。また、遊んだ後汚れをきれいに洗い流したり着替えたりして、「気持ちいいね」「さっぱりしたね」と言葉をかけながら、きれいになった心地よさを味わえるようにするのも大切です。

砂遊びやごっこ遊び、絵の具遊びや自然物を使った遊びなど、からだ全体を使った遊びをぜひやってください。保護者の方が楽しそうに遊ぶ姿を見ると、お子さんも安心して遊び、徐々に心を開いていくと思います。そして、そんな経験を積み重ねることで、お子さんも夢中になって遊ぶようになっていくと思います。ただし、無理に汚れさせたりすると、お子さんは余計に嫌がることも予想されますので、あくまでもお子さんの様子に合わせて徐々に進めることが大切です。また、園などの遊びで服を汚して帰ってきたら、大いに褒めてあげましょう。それはお子さんがたくさん遊んだしるし（勲章）です。少し大変かもしれませんが、お子さんが成長する一過程とおおらかに受け止めて対応してください。

もし、ぬれることや汚れることに慣れず過敏に反応する様子が続くようでしたら、園の先生をはじめ、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、家庭児童相談室（係）などにご相談されるのもよいと思います。



Q 手先が不器用で、用具がうまく使えない

はさみを上手に使えないし、他の用具も不器用で頼りない使い方をします。どうしたらよいでしょうか。

A 用具に触れる時間や場の確保を！

お子さんは、今まではさみを使って遊んだことがありますか？また、その他の用具も遊びの中で使っていますか？はさみの他にも、用具を上手に使うようになるためには、ある程度の“慣れ”が必要だと考えます。そのためには、まず、上手でなくても使ってみること、お子さんがやってみる場や時間を確保することが大切です。

用具に限らず、何でも始めから上手にできることはありませんよね。鉄棒や縄跳びなどにしても、挑戦し、何度もやってみるうちにコツが分かるようになり、徐々に上手になっていきます。

はさみに関しては、3歳くらいのお子さんでしたら、保護者が近くで見守りながら自由に切り刻める紙を与えましょう。細長い紙をちょんちょんと1回切りをする遊びから始めてみるのもいいですね。その時、もし危ない持ち方や使い方をしているようでしたら、安全な方法をきちんと教えてあげましょう。また、4～5歳くらいのお子さんでしたら、はさみで長く切り、切ったものの長さ比べをしたり、広告や好きなキャラクターを切りぬいてお子さんにとっての宝物作りをしたり、曲線に合わせて切る経験を増やしたりするなど、楽しみながらはさみの経験ができるようにしたいですね。お子さんが楽しさを感じたら、次もやってみようという姿につながります。なお、お子さんには先端がとがっていないはさみを与えるなど、危険を事前に取り除くことも必要です。また、左利きのお子さんは無理に直すことはありませんが、左手では切りにくいはさみがありますので、使用するはさみについても配慮してあげてください。

近年、“危ない”という理由ではさみを子どもに触らせないという保護者の方がいると聞きますが、それはかえって危険につながるように思います。触ってみるからこそ、楽しさも危険なことも学びます。その時大事なのは、人にはさみの刃を向けるなどの危険な扱いをする時や、服や人の髪などを切るような間違った使い方の時に、近くの大人がきちんと“いけないことをいけない”と教えることだと考えます。もちろん、上手に使えるようになったり、安全な使い方をしたりしていたら、たくさん褒めてあげてくださいね。

なお、いろいろ試してみても全体的に不器用さが改善されずご心配が続くようでしたら、園の先生をはじめ、近隣の子育て支援センターや保健福祉センター、市町の家庭児童相談室（係）にご相談してみたいかがでしょうか。



Q 絵を描いたり工作したりしない

ブロックや積み木など既製のおもちゃでは遊びますが、絵を描いたり、廃材でおもちゃを作ったりして工夫して遊ぶことが苦手です。どうしたらよいでしょうか？

A 一廃材などを用意し自由に遊べる環境を！

お子さんはブロックや積み木での遊びは好きだということなので、まずは好きな遊びができることを認めてあげましょう。そして、同じ遊びでもいつもと違った形やおもしろい形など、お子さん自身が考えたり、工夫したり、遊びがさらに発展したりした時などは、共感してたくさん褒めてください。人それぞれタイプがあるので、ブロックや積み木を使って創造的に遊ぶことも可能です。ただし、お子さんが絵画や製作など作る遊びに抵抗をもっているのだとすると、きっかけを作ることで遊びが広がっていくと思います。

子どもはそれぞれの遊びの中で様々な出来事と出会い、心を動かす体験をすると、その感動を周囲に伝え表現しようとしてします。その表現は言葉、身振り、絵画、造形など様々です。子どもなりの感動の表現を、共感をもって受け止められる体験を繰り返す中で、安心感や表現の喜びを感じていきます。

お子さんは、“絵を描いたり、作ったり、工夫したりする遊びが苦手”とのことですが、ご家庭には自由に絵を描いたり物を作ったりするための場所や材料や用具はありますか？危ないからといって用具を使わず、汚れる、散らかるからと、遊びを制限していることはありませんか？様々な素材に関わる多様な体験が表現の幅を広げ、表現する意欲や想像力を育む上で重要となります。

新聞紙、広告、空き箱、トイレットペーパーやラップの芯、紙紐、輪ゴム、毛糸、クレヨン、はさみ、のり、セロハンテープなどの素材、用具などを集めて、いつでもお子さんが手の届く場所に置き自由に遊べるようにしてください。お子さんが自由に表現でき、利用できる素材が豊かにある環境を準備することが大切です。

お子さんが興味をもったら、保護者の方も一緒になってやってみることで、楽しさ、喜びが大きくなります。絵を描いたり、廃材でおもちゃを作って遊んだりする楽しい経験を積み重ねていきましょう。楽しい経験を積み重ねることが、「また、やってみたい」「もっとやってみたい」などの意欲につながっていきます。お子さんの描いているイメージを受け止め、共感してあげると、そのイメージが蓄積され組み合わせられ、やがて、いろいろなものを思い浮かべる想像力となり、新しいものを作り出す力（創造力）につながっていきます。

最初はなかなか描いたり作ったり上手に表現することができないかも知れませんが、お子さんの少しの成長を認め励ましていくことで、お子さんは少しずつ自信をもち、苦手なことが“楽しいこと”“好きなこと”に変わっていくことと思います。時間はかかると思いますが、保護者の方もお子さんと一緒に楽しみながらお子さんの育ちを見守っていきましょう。